

犬の オーラルケアの 手引



歯周病を防ぎ
健康な歯を
保つために



監修：藤田桂一先生（フジタ動物病院 院長）



犬のオーラルケアはなぜ必要？



全身病の原因にもなる歯周病を防ぐため

人間と同じように、犬にも歯周病があります。現在では、3歳以上の犬の80%に歯周病がみられるというデータもあるほどです。歯周病を放置すると歯が抜けるなどしますが、それだけでなく炎症が目、鼻、あるいは皮膚の下にも広がって、目の充血やくしゃみ、鼻からの出血および鼻汁、鼻をなめるしぐさなどがみられることもあります(11ページ参照)。さらにおそろしいことに、肝臓や腎臓、心臓などの内臓にも影響を及ぼし、さまざまな全身病の原因にもなります。オーラルケアを行い歯周病を防ぐことは、歯を守るだけでなく、愛犬のからだ全体の健康を保つことにつながっているのです。

check!

今すぐチェック！ 歯周病のサイン

愛犬と触れ合いながら、口の中をこまめにチェックする習慣をつけましょう。以下に挙げたような変化があれば、歯周病の疑いがあります。早めにかかりつけの獣医師に相談してください。

- 歯が汚れていたり、黄ばんでいる
- 歯垢^{こう}や歯石^{うし}がみられる
- 歯肉(歯ぐき)が赤みや紫色を帯びていたり、腫れ、出血、膿^{うみ}がみられる
- 口臭がする



歯周病とは

歯周病は、歯肉炎と歯周炎を総称したものです。食べ物の食べかすや細菌など(歯垢)が歯と歯肉(歯ぐき)の間(歯肉ポケット)にたまり、歯肉が炎症を起こしたものが歯肉炎です。歯肉炎が進行すると、歯を支えている組織も壊され、歯肉ポケットはどんどん深くなって細菌の繁殖が進み、歯周ポケットとよばれる状態になります(図1)。

こうなると、歯肉以外の歯周組織にまで炎症が及んで歯周炎となります。歯周組織の炎症がひどくなると、歯を支えることができずに歯が抜けていきます。細菌が繁殖すると、歯根周囲の骨まで溶け出し、口の中や外に穴が開いたり、ものを食べたときに顎の骨が折れることもあります(図2、3)。

図1 歯周病のようす

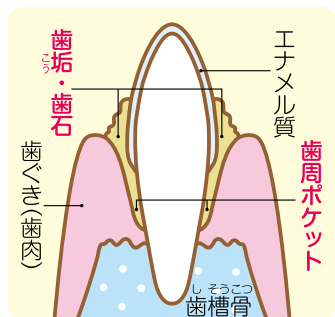


図2 口の外に穴が開いたようす



歯周病が原因で歯根周囲の組織が破壊され、眼の下に穴が開いた状態(外歯瘻)

口の中の様子。重度の歯周病である

図3 顎の骨が折れたようす



右下顎の第1後臼歯の部位で、下顎骨の骨折を認める



歯周病の治療と予防について



治療では歯垢や歯石を取り除きますが、
抜歯も少なくありません

歯周病の治療では、スケーラーとよばれる歯科用器具を使って、歯垢や、歯垢が石灰化して固まった歯石を取り除いたり(スケーリング)、歯周ポケットの中を洗浄してきれいにします(図4)。また、症状が進んでしまった場合は抜歯をします。

なお、一部の施設では、歯周病によってできた大きな歯周ポケットの中に、粒子状の人工骨を埋め込んで歯周組織の補修を促すなどの先端治療も行っています。しかし、これらの治療は難しいため、問題のある歯は抜歯をするケースも少なくないのが現状です。

図4 歯周病の治療



↓ スケーリングをして歯垢や歯石が取り除かれ、きれいになった歯



超音波スケーラーを使って歯石を取り除く(スケーリング)

歯周病予防に効果的な歯みがき

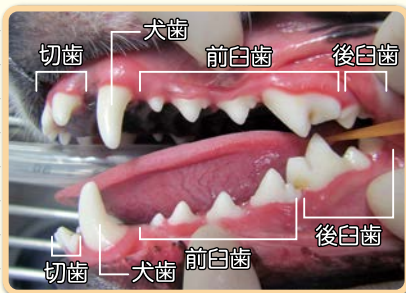
スケーリングを始めとした歯周病の治療は、獣医師のもとで犬に全身麻酔をかけて行いますが、ほかの病気にかかっていたり、高齢犬の場合は全身麻酔ができないこともあります。できれば治療が必要となる前に、歯周病を防ぐことが大切です。

歯周病の予防に際してもっとも効果的なのは、人間同様、歯みがきをすることです。歯みがきに関しては、「犬がいやがる」「やり方がわからない」などの声もよく聞かれますが、歯周病の怖さを考えれば、その重要性が理解できると思います。なお、歯みがきと並行して、噛むことで歯の表面についた汚れや歯垢を除去するデンタルガムや療法食 (t/d 犬用など) を活用することも、歯周病の予防に役立ちます。

COLUMN

犬の歯列の構造

成犬の上あごの歯/下あごの歯の数は、切歯3/3+犬歯1/1+前臼歯4/4+後臼歯2/3×2=42本となります。子犬の場合は、生後2ヵ月齢ほどで28本の乳歯が生え揃い、6~7ヵ月齢ほどで永久歯への生え変わりが完了します。オーラルケアのためには、この頃に歯の本数や形をチェックし、歯周病になりやすい乳歯遺残 (乳歯が抜けきらずに残ること) がないかどうか確認しておくことが大切です。



“歯みがきを成功させるコツ” はこちら。





歯みがきを成功させるには、準備が肝心

愛犬にいきなり歯みがきをしようと思っても、うまくいくことはまれです。ここでは歯みがき前の準備として、どのように慣らしていったらよいかをお伝えします。愛犬とよくコミュニケーションを取りながら、根気よく続けてみてください。

注意！

歯周病により歯ぐきが腫れていたり、出血している部分に触ると犬は痛み、以後の歯みがき習慣がつかれなくなります。すでに歯周病がある場合は、獣医師のもとで治療を行ってから、あらためて準備に入るようにしましょう。



歯みがき前の準備の手順

1 口の周りを撫でます

あらかじめ、小さく切った犬用のおやつをいくつか用意しておきます。リラックスタイムをつくって、まずは口の周りをなんとなく撫でることから始めましょう。



2 口の周りを掴みます

片手でおやつを見せながら、「待て」をします。その状態でもう片方の手を使って、口の周りをほんの1〜2秒、軽く掴みます。



3 歯や歯ぐきに触ります

上唇をめくり、指の腹で1〜2秒、軽く歯や歯ぐきに触ってみます。



4 指を口の中に入れます

最初は1~2秒入れたらすぐに出し、徐々に時間を長くしていきます。指に肉汁をつけてから行ってもよいでしょう。噛まれないように気をつけ、時々唇をめくったりなどしながら、楽しく行うようにします。



5 ガーゼや歯みがきシートを巻いた指を口の中に入れます

上から鼻先を掴みながら上唇をめくりまわす。その状態で、ガーゼや歯みがきシートを巻いた指を唇の端から口の中へ滑らせるようにして入れ、2~3秒触ることを繰り返します。ガーゼや歯みがきシートは、ぬるま湯で湿らせたり、肉汁や市販の犬用歯みがきペーストをつけてもよいでしょう。



6 ガーゼや歯みがきシートを巻いた指で、歯を軽くこすります

ガーゼや歯みがきシートを巻いた指で歯を軽くこすります。最初は前歯(切歯)から始め、少しずつ奥歯のほうへ移動していきます。



☆☆☆☆

★一つひとつのステップは、できたらその都度おやつを与え、よく褒めてあげましょう。歯みがき前の準備は、“おやつをもらえる、楽しいこと”と覚えさせ、**犬がいやがったら無理に続けず、その場でやめてください。**何より、辛抱強く続けることがコツです。



ここまで準備ができれば、実際に歯みがきをしてみましょう。





歯ブラシを使って、 歯をみがいてみましょう

犬の歯垢は3~5日で固い歯石になります。それを防ぐには、毎日少しずつ、3日以内にすべての歯をみがくようにしましょう。歯みがきも、その前の準備段階と同じように、一つひとつのステップごとにおやつを与えながら慣らしていきます。

注意!

歯周病により歯ぐきが腫れていたり、出血している部分を触ると犬は痛み、以後の歯みがき習慣がつかれなくなります。すでに歯周病がある場合は、獣医師のもとで治療を行ってから、あらためて準備に入るようにしましょう。



歯ブラシを使った歯みがきの手順

1 前歯の外側からみがいていきます

歯ブラシを見せて十分慣らしてから、歯ブラシを水や肉汁で濡らしたり、市販の犬用歯みがきペーストを少量つけます。犬の口を軽く押さえて上唇をめくり、前歯の外側から少しずつみがいていきましょう。



2 奥歯へと歯みがきを進めます

上あごを押さえている手の指で上唇をめくり、徐々に奥歯へと歯みがきを進めます。2~3秒、歯の根元から軽くみがいてください。特に、上あごの第4前臼歯は歯垢や歯石がつきやすいので、念入りにみがきます。



3 歯の裏側をみがくために口を開けます

一方の手の人差し指と親指で犬歯の後ろ側を皮膚ごとつまむと、簡単に口を開けることができます。



4 上の歯の裏側をみがきます

上あごをつかんでいる手をやさしく持ち上げ、歯ブラシを持っている手で下あごを押さえながら、上の歯の裏側をみがきます。これも前歯から徐々に奥歯へと進めていきます。



5 下の歯の裏側をみがきます

そのまま、下の歯の裏側もみがきましょう。なお、下あごの第1後臼歯は、上あごの第4前臼歯に隠れているため、ここで外側、裏側ともにみがきましょう。前歯から徐々に奥歯へと進め、みがき残しのないように。



☆☆☆☆

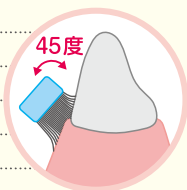
★3日以内にすべての歯をみがくことを目安にしましょう。とにかく楽しく慣れさせ、**歯みがきを好きにさせることが大事です。**

★歯肉が後退するほどの**みがき過ぎは止めましょう。**また、飼い主さんが**歯科用器具のスクレーパー**を使って歯垢や歯石の除去をすると、**歯や歯肉を傷つける恐れ**がありますので止めましょう。

COLUMN

歯ブラシの使い方

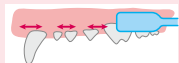
歯ブラシはヘッドが小さく、毛が柔らかめのものを使いましょう。歯ブラシの角度は、歯に対して**45度**にします。歯と歯肉の間の溝（歯肉溝）の汚れもかき出すつもりで、ていねいにブラッシングしましょう。くれぐれも力を入れ過ぎないで。



試
し
て
み
て
こ
ん
な
み
が
き
方
も

【バス法】

歯肉溝の汚れを落とすには、歯と歯肉との境目を、歯ブラシを横にスライドさせて軽くマッサージします。



【フォーンズ（ローリング）法】

歯ブラシを回すように動かすと、歯の表面の汚れを落としたり、歯肉をマッサージする効果があります。



*市販の犬用歯みがきペーストを使うと、なお効果的です。



歯周病にならない、 ひどくしないためには



1歳までの歯みがき習慣が肝心

万病の元ともいえる歯周病から愛犬を守るには、飼い主さんたちが積極的に予防策を講じてあげることが大切です。

それには、歯みがきが効果的ですが、歯みがきの習慣は、なるべく1歳になるまでにつけておくようにしましょう。それ以上の月齢になると、犬は歯みがきをいやがるが多くなります。もし愛犬がすでに1歳以上である場合には、この冊子でお伝えしている歯みがきや歯みがき前の準備は、より慎重に行い、徐々に進めていくとよいでしょう。



歯周病になりやすい犬

以下に挙げた犬は、歯周病になる確率がほかの犬より高い傾向にあります。このような犬には、飼い主さんがよりいっそう気をつけて、予防に努めるようにしましょう。

❖ 小型犬

❖ パグや狷などの短頭種

❖ 高齢犬

❖ 全身性の病気がもとで、免疫力が低下している犬

❖ 口の中のケアをよくされていない犬



歯周病は早期発見・早期治療が大切

歯周病は、予防することがもっとも重要ですが、もしかかってしまったら、早期に発見し、早期に治療することが大切です。歯周病は、その炎症度合いや犬の状態によって、歯以外の部位にもさまざまな症状が現れます。一見歯周病とは関係ないような症状に見えても、それが歯周病である可能性もあります。下の表を参考に、歯周病の早期発見につとめましょう。

歯周病が疑われる症状リスト

- よだれが多くなった
- 口の周りの汚れが目立つようになった
- 口臭がする
- 口の周りを前足で気にしていることが多い
- 口を床や家具などにこすりつけていることが多い
- 頭をよく振っている
- 口の周りを触ろうとするといやがる
- 柔らかい食べ物ばかりを好み、硬いものは食べようとしない
- 食事中に口からぼろぼろと食べ物をこぼすことが多い
- 片側の歯でものを噛んでいることが多い
- 食事中、または何かを噛んでいる最中、急に妙な声を出すことがある
- 食べ物を口の中に入れても、すぐに出してしまう
- 食欲はありそうな割に、あまり食べようとしない
- 片側の目に目やにが出ていたり、目が充血している
- 舌で鼻をなめたりするしぐさが多くなった
- くしゃみ、鼻汁、鼻からの出血などがときどきみられる
- ほほやあごが腫れている。または、穴が開いている



愛犬のこんな症状に気づいたら、早めにかかりつけの獣医師に相談を!



CONTENTS

犬のオーラルケアはなぜ必要？

2

歯周病の治療と予防について

4

歯みがきを成功させるには、準備が肝心

6

歯ブラシを使って、歯をみがいてみましょう

8

歯周病にならない、ひどくしないためには

10

かかりつけ医の連絡先



壱岐動物病院


<https://1013.jp>




〒811-5117

長崎県壱岐市郷ノ浦町田中触989-1

TEL 0920-47-6767

制作  DSファーマアニマルヘルス株式会社
大阪市中央区本町 2-5-7

お客様相談窓口 (平日：9:00~17:00)
※携帯電話・PHSからご利用いただけます。

 0120-511022